

TADESKA

関西学院大学梅田キャンパス

2013.4.6

担当：小川雅美

テーマ

- I. 「所要時間 20 分の教案を作る」シリーズ 第 1 回
- II. アーカイブ方法などについての話し合い
- III. 現行の世話役制度の変更についての話し合い

★ I は今回スタートなので、議事録もパワーポイントの解説も詳しくにしました。毎回そうである必要はありません。

★ II、III は重要なテーマですので、別のファイルを作ります。

I.

「モノ」をスペイン語で表現する 第 1 回¹ “数量詞+名詞+形容詞” (不定名詞句)

小川雅美

2013 年度の TADESKA ワークショップでは、担当者が 20 分程度の教案を作り、可能であればパワーポイントを用いて模擬授業を行い、参加者とのやりとりを通して改良した教案や資料を、パワーポイントにまとめてアーカイブしていく、という活動をしていきます。

1. ユニットのねらい

「何らかの具体物をまとまりとして認識し、それをスペイン語の名詞句で適切に表現する」というプロセスを学習者に体験させる。

授業外でも、学習者がそのことを試せるよう誘う。

2. ヒントにしたこと

- ・「思考の単位はことばの意味である」(ヴィゴツキー)
←「最初に言葉ありき」とは似ていて全然違います。
- ・ Nueva Gramática Básica de la Lengua Española
など。

¹ 2012 年 5 月に柿原武史さんが、この企画の提案を兼ねて模擬授業をしてくれています。月度が離れているので、柿原さんの分を「第 0 回」とさせていただきます。

3. 想定される既出事項

初級文法で、名詞とその性について扱われていること。

4. 授業の進め方

説明が中心。ただし、教師が主導して、学生らに名詞句を口頭で作らせるようにして、「教師—学生」のやりとりを志向しつつ行う。

5. このユニットを作った背景

—本語話者は、具体物を認識した時、「本」という語彙を単独で思い浮かべたり言ったりすると思われる。しかし、スペイン語話者は、日本語話者よりずっと多くのケースで「限定詞+libro」と思ったり言ったりするのではないか。言語構造の違いは認識の仕方の違いによるなら、そのレベルで「文法の意識化」をしてはどうだろうか。

—「どうして名詞の性を覚えられないといけないのか」という疑問やしんどさを感じる学習者が多いはず（かつての私も）。しかし、「名詞句」が表すのは1つの概念（意味のまとまり）であると考えれば、その中にある複数の要素（単語）間に結束性があるというのは納得しやすい。

6. 模擬授業

出席者のみなさんが受講生の役で協力してくださった。23分程度かかった。録音するのを忘れた。会場のモニターが電子黒板だった。

7. 模擬授業後のやりとりから

—パワーポイントの表は、単語数が多いと煩雑なので絞り込んだ方がよい。

—パワーポイントのリハーサル機能で、1つのスライドの所要時間も提示できる。

（その他、パソコン関係のヒントあり）

—文化を紹介しながら文法を教えるのがおもしろいと思った。

—20分を超えたが、退屈しなかったので、時間を気にしすぎなくて良い。

—（ネイティブ）日本人は、1つの名詞だけで行動まで表すところがスペイン語話者と違う。

日本人「トイレ。」 ネイティブ話者 “Voy al baño.”

—（ネイティブ）”Un libro”だけ単独に思ったり言ったりするのではなく、Hay un libro., Este es un libro. などと発話の中でしか出てこない。

←これらのネイティブの参加者の指摘は非常に興味深い。まさにそこを考えながら教案を作った。（説明する時間がなかったのも、特に2つめの指摘についてはさらに考えていきたい。思考、概念、発話など抽象語を使うので、専門的になってしまう）

8. 担当者の感想 (TADESKA 終了後)

- ・自分の授業の方法を多角的に見つめ直せておもしろかった。ドキドキした。
- ・参加者の皆さんが暖かくコメントをしてくれた。
- ・今まで、自分ではがんばっているつもりでも、やはり漫然と授業をしていたことに気づかされた。
- ・学生の集中力の限界を 20 分とみなして、その短い時間内にどのようなストーリーを用意するかが重要。
- ・すべての単元でこういうのを作っていたら大変なので、他の先生の模擬授業を参考にしていきたい。

これから担当する人へ

・パワーポイントを使って慣れないことをすると、凝り始めて、結果的に準備に時間がかかった。ビジュアル的にいろいろ盛り込むと人々へのインパクトはあるが、自分のねらいに関係ない所では凝る必要はないと思う。

・色の選択や表示については、学生の中に色覚異常のある人がいるかもしれないので、その学生が困らないような何らかの配慮が必要。(2013.3 TADESKA での土井さんのワークショップ参照)

・学生用配布資料を別途 Word で作ったのはよいが、それをアーカイブのためパワーポイントに組み入れるのに困った。私がやってみた範囲では、

- ・Word の中に画像やパワーポイントのページをコピペで入れることは可能。
- ・Word をそのままパワーポイントに入れることは不可能。

ワークショップの時に、Santiago López さんが「画像」と言っていたのを思い出して、結局 Word をキャプチャーで画像(jpeg)にして、縮小して入れた。画像にしたものは拡大すると、内容はわかるが、ぼやけて配布用には再現できない。今回のような資料なら実際の授業の状況に合わせて授業者が自作した方がいいと思う。(キャプチャー機能は、私が使っている Windows 7 には標準で入っている Snipping Tool を使用。)

・パワーポイントは、いろいろ盛り込むと異様に重たくなります。原因は「カラー写真」です。どうやら、減量の方法としては、次のようなものがあるようです。

1) 「図の圧縮」

2) ネットでみつけた画像などを、いきなりコピペするのではなく、一旦画像ファイルとして PC に格納し、パワーポイントに「挿入」する。

ファイルが重たいと、何かと不便で、ダウンロードする他の人にとってもよくないので要注意。(と言いながら 1 MB 使ってますみません)

以上